

図書室、執務空間、配慮を要する子の空間の他都市事例

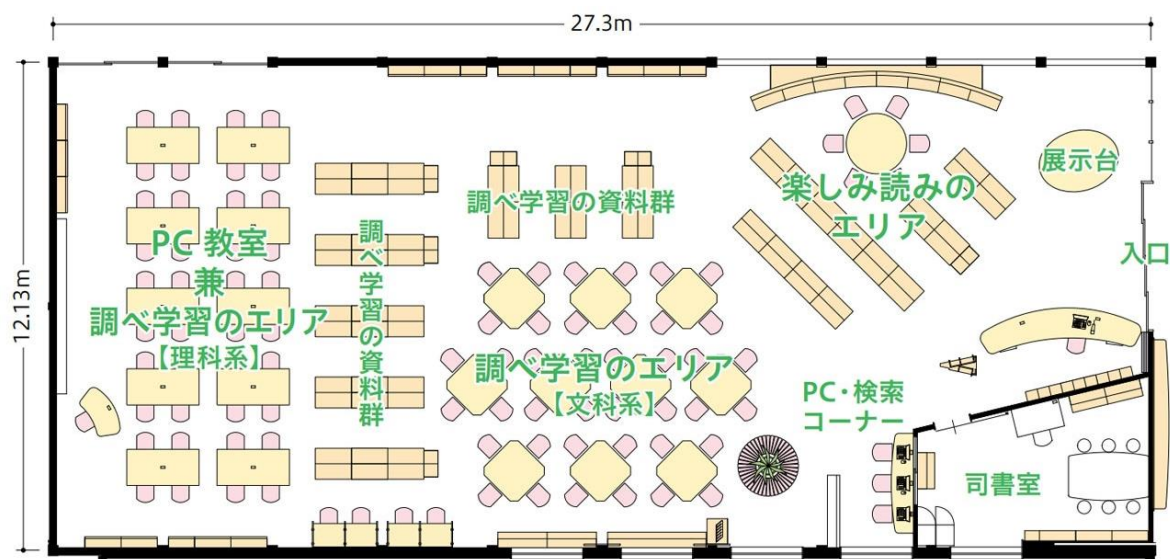
学校図書館事例 No.1

学校名称	牛久市立ひたち野うしく中学校
所在地	茨城県牛久市東端穴町 1341 番地 1
建物用途	中学校
延床面積	10,018 m ²
構造・階数	木造 RC 造一部 S 造・地上 2 階建
新築・改修	新築
開校年	2020 年 4 月
児童生徒数	16 学級：468 名（2022 年 5 月 1 日現在）

概要

牛久市立下根中学校の生徒数増加による教室不足に対応するため、新たにひたち野地区へ中学校を分離新設することを計画。2020 年 4 月に開校した。校舎中央のメディア棟に配置されているメディアライブラリー（図書館）は木造の校舎に調和した温かみのある空間となっている。

平面図



メディアライブラリー（面積：約 330 m² 蔵書約 12,000 冊）

写真



メディアライブラリーの入口

各学年の普通教室につながる廊下からもガラス窓を通して中がうかがえるようになっており、メディアライブラリーが学校の核となり、子どもたちに親しまれることを目指している。

写真



入口を入ってすぐの場所には展示台が設置されている。



楽しみ読みのエリア

イスとテーブルが設置されており、大型本を閲覧することができる。



調べ学習のエリア

センター内には 40 席の調べ学習のエリアが 2 ヶ所あり、2 クラス同時の調べ学習にも対応している。一方にはプロジェクターやスクリーン、PC 配線も用意されており ICT も活用できる。



〔出典〕

○牛久市 <https://www.city.ushiku.lg.jp/page/page005600.html>

○こどもが変わる 学校が変わる 図書館づくり

<https://www.hirayumodel.com/topics/entry-774.html>

○久米設計 <https://www.kumesekkei.co.jp/project/0354.html>

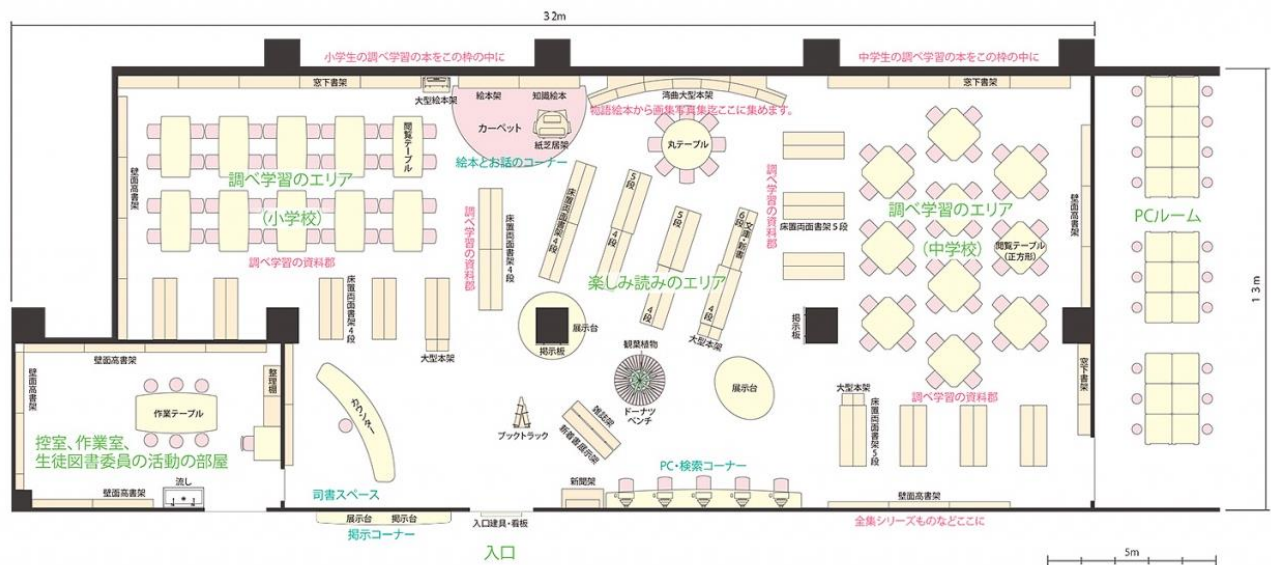
学校図書館事例 No.2

学校名称	東かがわ市立大内大川小中学校
所在地	香川県東かがわ市西村 1510 番地
建物用途	小学校、中学校
新築・改修	新築
開校年	2013 年 4 月（2022 年 4 月大内大川小中学校に名称変更）

概要

大内小学校は、東かがわ市の大川中学校区学校再編事業として、2つの小学校を統合し大川中学校内に併設・新築された。市が目指す小・中連携教育を軸とした学校づくりを進めるうえで、小・中学生が共用する施設は、双方の教育および生活面をつなぐ重要な役割を持つ。新図書館もそのひとつであり、共用に必要なスペース・機能・構成や活用について十分な検討がなされ、幅広い年代の利用をサポートする専任の図書館支援員が配置された。

平面図



図書館（蔵書約 33,000 冊）

写真



司書スペース
館内も見渡せる湾曲したカウンター



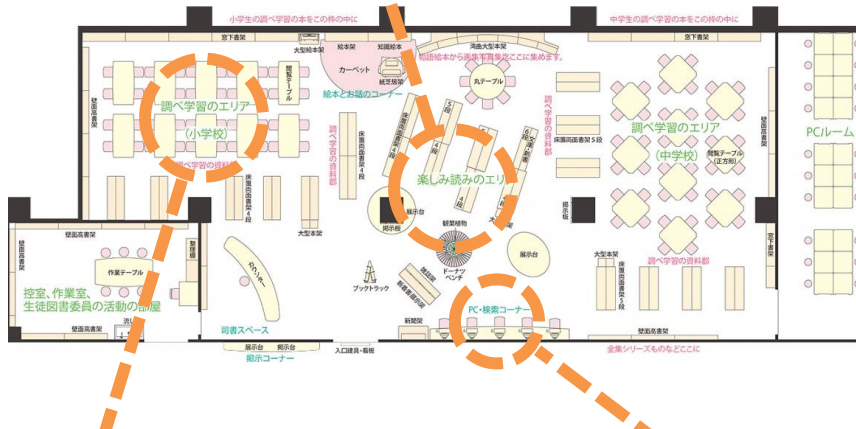
司書控室、作業室、生徒図書委員の活動の部屋

写真



楽しみ読みのエリア

入り口近くのドーナツベンチは、新着本や雑誌を読む小・中学生で賑わう。



小学生の調べ学習のコーナー

4人掛けで本やノートをみんなで広げられる大きめのテーブル。



PC・検索コーナー

〔出典〕

○東かがわ市立大内大川小中学校 <https://www.fureai-cloud.jp/oochi/>

○こどもが変わる 学校が変わる 図書館づくり

<https://www.hirayumodel.com/topics/entry-89.html>

学校図書館事例 No.3

学校名称	豊田市立寺部小学校
所在地	愛知県豊田市上野町一丁目 173 番地
建物用途	小学校、こども園
建築面積	7,814 m ²
延床面積	10,929 m ²
構造・階数	木造、一部 RC 造及び鉄骨造・地上 2 階建
新築・改修	新築
開校年	2016 年
児童生徒数	19 学級：486 名（2022 年 4 月 6 日現在）

概要

区画整理による校地移転に伴う改築工事。計画にあたり、地域の参加者を募ったワークショップを基本計画から実施設計まで計 13 回行い、こども達が過ごす環境、地域支援室の設置や小学校とこども園の合築といった様々なテーマを話しあい、地域でつくりあげた学校となった。

写真



メディアセンター（2 階）

子どもたちが活動しやすい“回遊できる動線計画”にして、その動線上にメディアセンター、交流室、中庭、ピロティーなど多様な空間を点在させた。メディアセンターの奥にはコンピュータ教室を配置。

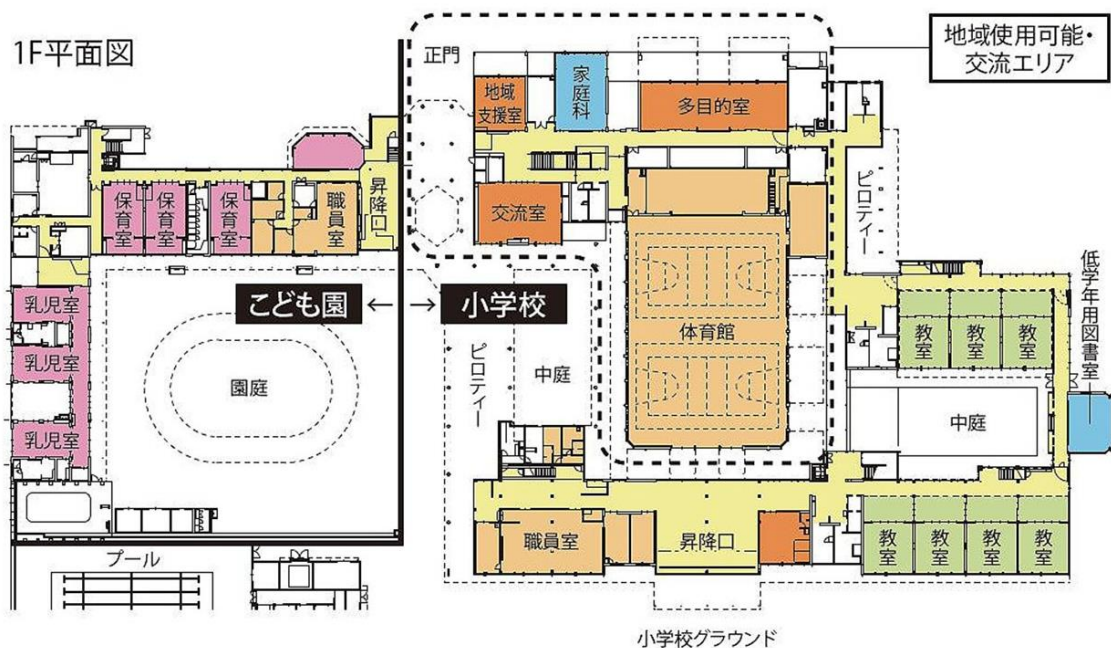
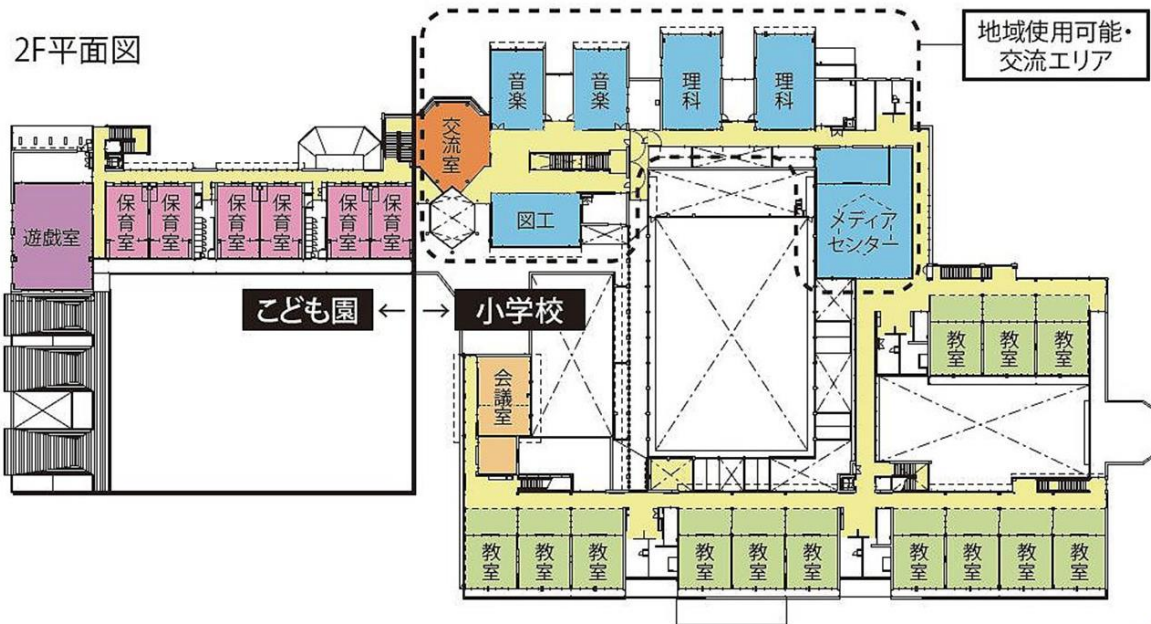


低学年用図書館（1 階）

メディアセンターとは別に、低学年教室の近くに設けられている。教室、中庭、低学年用図書館をセットして、自由に連続して使えるようにした。

施設計画

- 1 階は小学校とこども園を分離し、2 階は交流スペースで繋ぐ施設計画とした。
- 新施設の正門はひとつで、入ってすぐ左手に地域開放ゾーンを設けた。
- 体育館は校舎の隅に配置されることが多いが、校舎の中央に配置。地域開放や防災拠点以外に、子どもたちが『屋根のある広場』として自由に使えるよう計画した。



〔出典〕

- 豊田市立寺部小学校 https://www2.toyota.ed.jp/swas/index.php?id=s_terabe
○青島設計 <http://www.aoshimas.co.jp/gallery/detail/32>
○こどもが変わる 学校が変わる 図書館づくり <https://www.hirayumodel.com/topics/entry-196.html>

学校図書館事例 No.4

学校名称	にじの丘学園（瀬戸市立小中一貫校）
所在地	愛知県瀬戸市中山町1番地の57
建物用途	小学校、中学校、地域図書館
建築面積	7,238 m ²
延床面積	12,134 m ²
構造・階数	RC造・地上2階、地下1階建
新築・改修	新築
整備時期	2020年4月竣工
児童生徒数	小学校 28学級：708名 中学校 12学級：306名（2022年5月1日現在）

概要

本施設は、緑地公園の一角に5小学校と2中学校の7校統合による小中一貫校として計画された。設計コンセプトは、「歴史や伝統を受け継ぐ場所をつくり、9年間の学校生活の中で、自ずと郷土を学び、次世代へ掲揚される学び舎をつくること」である。山林や多くの自然環境が残る高低差約15mの特徴ある敷地を最大限活用し、太陽光、自然採光、通風等の自然エネルギーを積極的に活用することで、省エネルギー性能を高めた。



校舎外観



大階段・吹抜構造

瀬戸物の登り窯を模した大階段・吹抜構造「登り窯ステップ」を校舎中央に配置し、高低差のある地形を活かし、中庭やハイサイドライトを立体的に配置することで、光や風を大空間に優しく取り込む計画とした。

写真

- 学校の中心にライブラリー・多目的スペースを配置し交流が自然に生まれる場所に。
- 図書スペース横に併設されている大階段には、休み時間になると子どもたちが集まる。
- 土日祝日は、地域図書館「にじの丘ライブラリー」として一般開放している。児童書だけでなく一般書籍も並んでいる。



【出典】

- ZEB 事例集（文部科学省） https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/shuppan/mext_00003.html
- 瀬戸市 <http://www.city.seto.aichi.jp/>
- いいもん せともん <https://iimonsetomon.jp/kurasu/>
- あいちの木材利用施設事例集 R04（愛知県）

学校図書館事例 No.5

学校名称	魚津市立星の杜小学校
所在地	富山県魚津市住吉 203
建物用途	小学校、学童保育
延床面積	4,884 m ²
構造・階数	木造・地上3階建
新築・改修	新築
整備時期	2020年1月竣工
児童生徒数	15学級：290名（2021年度）

概要

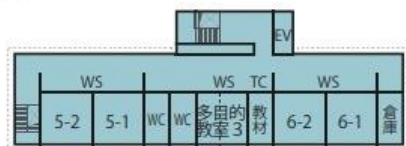
魚津市立星の杜小学校は、文部科学省による「木の学校づくり先導事業」による支援を受けた全国初の本造3階建て小学校。建設にあたり、防耐火・構造・木材調達、様々な分野の専門家と協働して設計を進めることとなった。また、設計段階から大学研究者と協働しながら設計を進め、基本計画から実施設計までの各段階において、地域住民・教職員・児童を対象にそれぞれワークショップを行った。

平面図

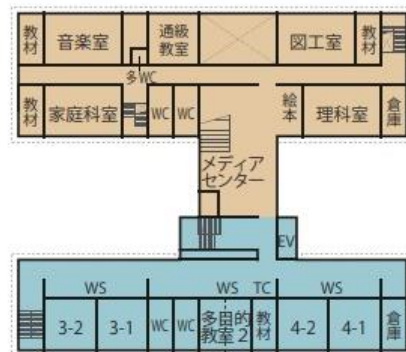


- 普通教室ゾーン
- 特別教室ゾーン
- 体と心のケアゾーン
- 管理ゾーン
- 学童保育ゾーン

WS ワークスペース
TC 教員コーナー



3階平面図



2階平面図

写真

メディアセンター

メディアセンターは2層からなり、南北2つの棟をつなぐ渡り廊下と一体となったオープンなスペース。1階にパソコンなどが置かれた調べ学習エリア、2階に図書エリアがあり、1～2階を吹き抜けの階段教室がつないでいる。ダイナミックな登り梁と柱で構成された木の空間は、児童たちに心地いい居場所と夢のある世界を提供している。



立ち寄りやすいメディアセンター



2階の図書エリア

立体的な繋がりを生み出す段状の
オープンスペース

〔出典〕

○東畑建築事務所 <https://www.tohata.co.jp/works/?mode=show&seq=2992>

○魚津市立星の杜小学校 <http://www.hoshinomori-e.tym.ed.jp/>

○柚 Vol. 11 <https://www.pref.toyama.jp/documents/18606/soma11.pdf>

学校執務空間事例（職員室）

大阪府 泉南市立泉南中学校（整備時期：2019年5月）

○フリーアドレスを採用した職員室では、効率化とコミュニケーションを高める新しい働き方にチャレンジしている。



固定席エリア

校長室に隣接しているエリアは教頭、人権担当、生活指導の先生方＋事務職員の固定席になっている。



非常勤・集中作業エリア

集中して作業ができるエリアを設定しているので、業務の内容に合わせて席を選ぶことができる。



コラボレーションエリア

フリー席になっているので、教科や学年のくくりを超えた自然なコミュニケーションが誘発される。



コラボレーションエリア

モバイルバッグを利用することで教室から教師コーナー、職員室の移動をスムーズにおこなっている。



ロッカーコーナー

出勤時には、ここでPCや必要な資料などを取り出してから、執務エリアに向かう。



備品庫

扉が閉まっている状態でも、どこに何が入っているかわかるように工夫している。



メディアスペース・教師コーナー

教科担当の教員が授業の準備や空き時間の作業を行う。生徒の近くにいるため、スムーズな援助や指導が可能。



メディアスペース・教師コーナー

教科に関する掲示物や書籍、資料、グループで利用できるテーブルが設置され、生徒が調べたり考えたりすることが身近にできる空間になっている。



校長室

ソファは来客時の対応だけでなく、生徒とのコミュニケーションスペースとしても利用されている。

〔出典〕

○コクヨの教育空間 <https://www.kokuyo-furniture.co.jp/manabi/casestudies/case-000172/>

埼玉県 吉川市立美南小学校（整備時期：2019年8月）

- 文部科学省の業務改善アドバイザー派遣事業の一環で職員室改善を行った。
- 「働き方改革」の視点を重視し、業務改善と教職員間コミュニケーションの活性化を軸に、働きやすい空間についてワークショップや研修を行いながらリニューアルを実現。
- 資料の電子化によるペーパーレス化や資料・物品の共有化を進めた。



グループアドレス席

手軽に席を移動したり机を動かせたりできるように、ワゴンは設けず各自のロッカーに荷物を入れて運用。



管理職の席を中央に配置

管理職と教員とのコミュニケーションが取りやすくなり、クイックミーティングや偶発的コミュニケーションを生むことができる。



グループアドレス席

クリアデスクを心がけることで空いているときには、ワークスペースを広く確保することができる。



個人ロッカー

グループアドレスでの運用がしやすいようモバイルバッグを導入。鍵付きの個人ロッカーにはモバイルバッグごと収納可能。

〔出典〕

○コクヨの教育空間 <https://www.kokuyo-furniture.co.jp/manabi/casestudies/case-000168/>

岡山県 総社市立総社小学校（整備時期：2019年3月）



職員室全体

年度末の席替えの手間を軽減させるため可動式のワゴンを導入、簡易な打合せスペースも設け、教員間のコミュニケーションをしやすい環境を整備した。



円卓

かしこまらずコミュニケーションの取りやすいコーナー。



打合せスペース

非常勤講師用スペースにもなる。

富山県 富山市立八尾中学校（整備時期：2022年1月）



職員室

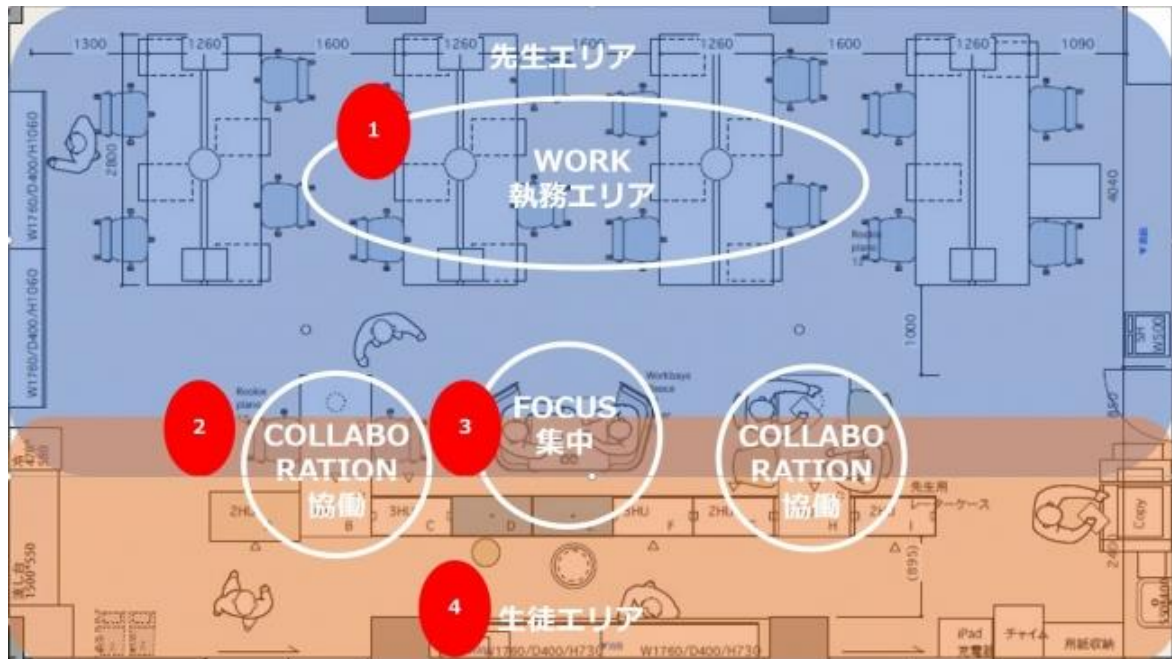
デジタルサイネージを設置し、連絡事項やスケジュールの掲示が行えるようにしている。また部屋の中央部に管理職を配置し、全体が見渡せるようにしている。

〔出典〕

○コクヨの教育空間 <https://www.kokuyo-furniture.co.jp/manabi/casestudies/case-000170/>
<https://www.kokuyo-furniture.co.jp/manabi/casestudies/case-000247/>

島根県立津和野高等学校（整備時期：2019年4月）

- スイスの家具メーカー・ヴィトラと協働し、“新職員室”「センセイオフィス」を完成させた。
- 業務に応じて職員室内を自由に移動しながら働くことができる。
- 個人デスクに留まり、長時間同じ姿勢でいることを避け、健康的に働くことも可能にした。



職員室レイアウト

1. 仕事の質の向上（作業しやすい、集中できる、場を選べる）
2. コミュニケーションの質の向上（周りとの仕事がしやすい）
3. 生徒との関わりの質の向上（向き合いやすい、話しやすい）
4. 健康面・精神面の配慮



パソコン作業に適した広い机や椅子



家具で区切る先生エリアと生徒エリア

[出典]

○島根県立津和野高等学校 <https://tsuwano.ed.jp/news/category/torikumi>

○Frontier Consulting <https://www.workersresort.com/jp/facility/sensei-office19/>

学校執務空間事例（職員用ラウンジ等）

京都府 立命館宇治中学校・高等学校（整備時期：2021年8月）



教員ラウンジ



カウンセリングルーム



ミーティングルーム



コミュニケーションテラス

○出典：愛知株式会社 <https://www.axona-aichi.com/projects/archives/499>

滋賀県 近江八幡市立桐原小学校



職員室及び印刷室に隣接する教員用ラウンジ。教員用スペースはすべて校庭に面した配置となっている。

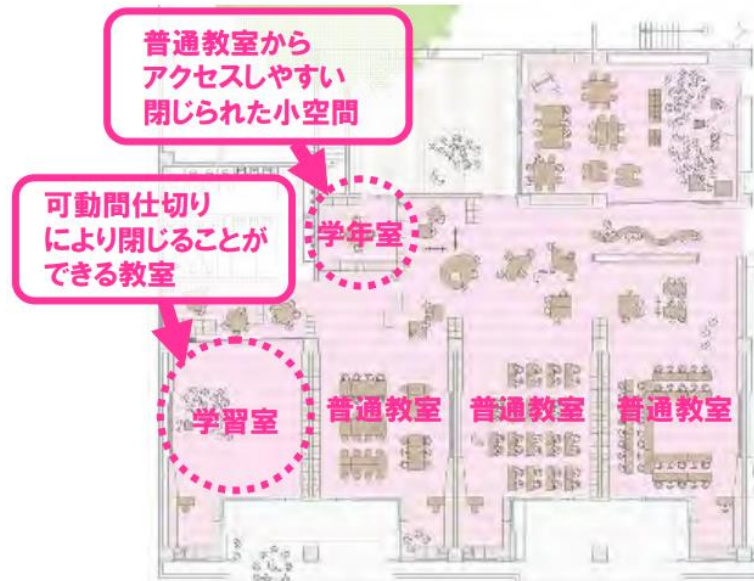


学校の中に PTA 等が集まるための会議室を設け、様々な人が学校に参画しやすい環境をつくっている。

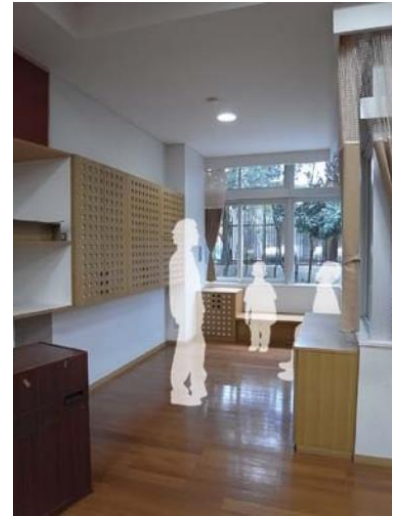
○出典：報告書「これからの小・中学校施設の在り方について」文部科学省

特別支援学級・配慮を要する子の空間事例

東京都 武蔵野市立大野田小学校



少人数指導のための小空間と普通教室との位置関係



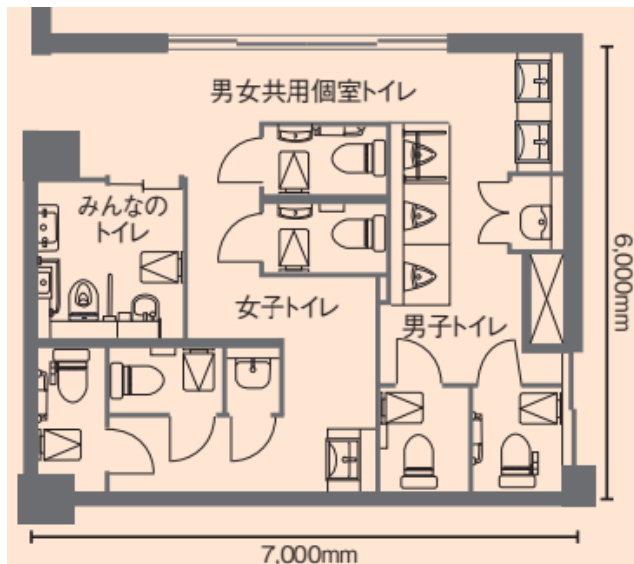
普通教室と連続した小空間

○出典：新たな学校施設づくりのアイデア集 H22 文部科学省

愛知県 豊川市立西部中学校（整備時期：2020年8月）

生徒が「選べる」トイレ

1階トイレでは、着替えに困るとの声から性的マイノリティに配慮して大便器のあるすべての場所にフィッシングボードを設置。男女共用、みんなのトイレ、どのトイレを使うか生徒が選ぶことができる。



1階トイレ入り口
どのコーナーも利用する生徒の選択肢を増やすための配慮が行き届いている。



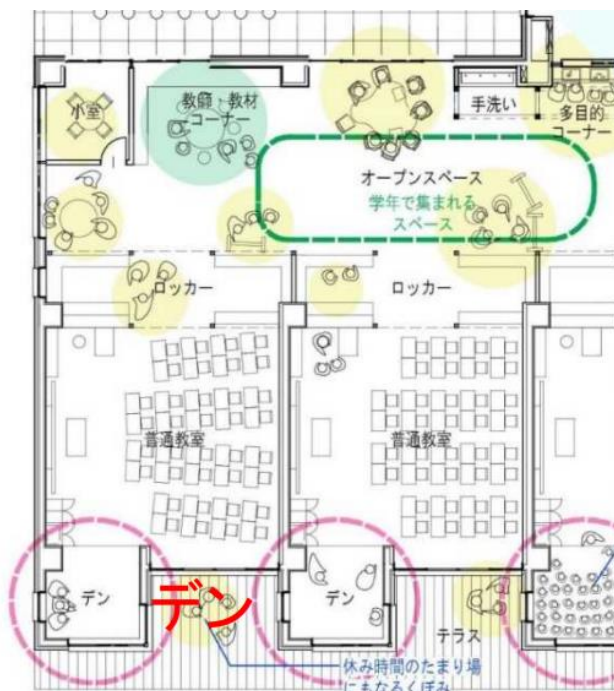
男女共用個室

手洗いを設置した個室完結型で、着替えのためのフィッシングボードと大便器下専用の防汚陶板を設置。



○学校のトイレ研究会 <https://www.school-toilet.jp/case/nigata.html>

新潟県 糸魚川市立糸魚川小学校（整備時期：2014年）



デン

低学年の教室には、教室ごとに4畳半ほどの小上がりスペースがある。



おこもりトイレ

一人でゆっくりとこもりたい児童に配慮して、木材で覆われたリラックスできるブース。

〔出典〕

○学校のトイレ研究会 <https://www.school-toilet.jp/case/nigata.html>

○学校づくりの課題と木の空間 https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/a_fieldfile/2018/07/30/1402174_04.pdf